

# 令和5年度 学校評価

伊予市立中山小学校

令和6年2月

【評価基準】 A:目標を達成(80%以上) B:おおむね達成(60%以上) C:あまり達成できていない(60%未満)

項目	小項目 (重点目標)	評価指標及び目標値	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果				
							4	3	2	1	分からない
仲間を大切に する子 徳	○生命の大切さを 自覚する道徳教育 の推進	○命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にしている。  【目標値】 ○教職員・保護者・児童の8割以上が肯定	A	○朝、登校をしたらすぐに、一人二鉢栽培の花の水やりや観察をするよう呼び掛けた。教職員の共通理解の下、花の世話を習慣化することができている。 ○児童は、日頃から、生き物や自然に親しんでいる。今年度は、一人二鉢の花の世話や生活科や理科などの教材を通して、身近に生息する小さな生き物、(ダンゴムシやカナヘビ、チョウなど)を身近に感じ、大切に育てることを通して、生命尊重について意識して活動することができたと思う。	教職員アンケート	A	38	62	0	0	
		保護者アンケート			A	22	78	0	0		
	○いじめの早期発見・早期対応・未然防止に努めている。  【目標値】 ○教職員・保護者の8割以上が肯定	B	○月1回の心の健康調査を行い、その結果を基に教育相談を行っている。その際、悩みの相談以外にも、本人が頑張っていることなども伝えて、児童の自信につながるようにしている。また、いつでも悩み事を相談できるように、「なかよしポスト」を設置して、児童が悩み事を抱え込まないような取組をしている。 ○職員会議の後に、各学年ごとの児童の情報交換を行い、一人一人の児童理解を深めており、いじめ予防や今後の指導の方向等について、教職員が共通理解し、児童の指導にあたっている。 ○今年度、いじめ認定事案は、3件である。3件とも教職員全員で早期に対応し、全教職員で見守り等を行った。いじめはいつでもどこでも起きうるものであることを念頭に置き、今まで以上に児童とのコミュニケーションを密にして、児童の些細な変化を見逃さないようにする。そして、児童にとり安心な学校生活を保障したい。	教職員アンケート	A	13	74	13	0		
				保護者アンケート	C	22	22	22	6		28
					いじめ・不登校状況	いじめ・不登校3件					
	学校関係者評価委員の所見	○学校の教育活動全体を通して、生命の大切さを自覚させるよう指導されていることがよく分かる。小さな生き物を、学校・学級で飼育する際には、命の尊さに触れることができるよう世話の仕方等、十分配慮していただきたい。 ○いじめはいつ起こってもおかしくない。これまでどおり、解消に向けて全力で当たってもらいたい。 ○不登校傾向の児童に対して、今後も適切に指導・支援に取り組んでほしい。 ○保護者アンケートで「分からない」と回答している割合が多い項目がある。質問内容を検討する必要がある。		学校の対応			○今後も生命の大切さを自覚させるよう指導を継続する。小さな生き物の飼育については、必要な学習や観察が終わったら、速やかに自然に帰すなど適切に対処する。 ○「いじめは、どのクラスにも起こりえる」という認識のもと、アンテナを高くし実態把握に努めていく。いじめが起こった時には、被害児童の立場に寄り添い、解消に向けてチームで取り組む。 ○不登校傾向の児童に対しては、これまでどおり、本人や保護者の思いに寄り添い、関係諸機関と連携して対応に当たる。				

【評価基準】 A:目標を達成(80%以上) B:おおむね達成(60%以上) C:あまり達成できていない(60%未満)

項目	小項目 (重点目標)	評価指標及び目標値	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果				
							4	3	2	1	分からない
仲間を大切に する子 徳	○人権・同和教育の充実	○豊かな関わりを育む異年齢集団活動が充実している。  【目標値】 ○異年齢集団活動を実施可能な時間数(月3回)に対して9割以上実施 ○教職員・保護者・児童の8割以上が肯定	A	○毎週金曜日の縦割り班遊びでは、高学年がリーダーシップをとり、下学年の意見を聞きながら楽しく活動することができた。また、月に1回のみみんなで遊ぼうタイムでは、運営委員の意見を基に、縦割り班とは別の異学年集団で楽しく遊ぶことができている。昼休みの自由遊びでも、異学年が誘い合って楽しく遊ぶ姿が見られる。遊び以外の活動でも、異学年集団活動を増やしていきたい。	教職員アンケート	A	13	87	0	0	
					保護者アンケート	A	44	38	6	6	6
					児童アンケート	A	97			3	
					異年齢集団活動(2学期)	月平均 3 回					
	○友達に対して、思いやりのある言動ができている。	【目標値】 ○教職員・保護者・児童の8割以上が肯定	A	○道徳科だけでなく、学校生活全体を通して、相手を思いやる心身の育成を図っている。相手を傷つけるような言葉が出たときには、その都度互いの思いを伝え合い、正しい言葉遣いやどのような行動を取ればよかったかななどの具体的な指導を、更に行っていききたい。 ○なかよし集会を行い、中山小学校言葉のルールを全校児童で確認したり各学年で頑張って実行していく項目を紹介し合ったりした。朝の挨拶の実践や温かい言葉遣いなど、相手を思いやる態度が育ってきている。	教職員アンケート	A	25	75	0	0	
					保護者アンケート	A	11	78	11	0	0
					児童アンケート	A	97			3	
	○特別支援教育の充実	○児童一人一人の実態を把握し、個に応じた指導を行っている。  【目標値】 ○教職員・保護者の8割以上が肯定	A	○日頃から情報交換を行い、配慮を要する児童の実態把握に努め、全教職員で指導に当たるようにしている。しかし、年々児童の実態は多様化しており、個に応じた指導の充実が更に求められている。校内での支援体制や校内研修の充実を図っていききたい。 ○配慮を要する児童について関係機関との連携を密にし、日頃の支援に生かしている。	教職員アンケート	A	13	87	0	0	
					保護者アンケート	B	16	61	11	6	6
		学校関係者評価委員の所見	○様々な場面で縦割り班活動を取り入れたり、新しく「仲良しポスト」を設置したりするなど、豊かな関わりを持つことができています。 ○「児童一人一人の実態を把握し、個に応じた指導を行っている」について、教職員の評価が昨年度に比べよくなっている。今後更によくなることを期待する。		学校の対応	○今後も、異年齢集団での縦割り班活動を積み重ねていくことで、互いを思いやることのできる仲間づくり、いじめを許さない集団づくりに努める。また、児童の意見を取り入れ、よりよい集団づくりができる活動を今後も実践していく。 ○少人数のよさを生かし、児童一人一人の実態を的確に把握し、情報を教職員で共有する。そうして、個に応じた指導を充実させる。					

【評価基準】 A:目標を達成(80%以上) B:おおむね達成(60%以上) C:あまり達成できていない(60%未満)

項目	小項目 (重点目標)	評価指標及び目標値	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果				
							4	3	2	1	分からない
考え、 表現する子	○基礎・基本の確実な定着	○児童には、発達段階に応じた基礎的な学力が身に付いている。  【目標値】 ○教職員・保護者・児童の8割以上が肯定 ○漢字・計算検定で9割以上の児童が合格(合格90点) ○自主学習ノートの活用回数(低:週3回以上、中週4回以上、高6回以上)	A	○漢字検定や計算検定は、目標を達成することができた。また、各学年の発達段階に応じて、自主学習にも取り組むことができ、真面目に学習に取り組む態度が身に付いている。 ○本校独自の「算数ぐんぐん学習」や毎週1回時間を設けて実施しているワークを使った読解力問題への取り組みも継続しており、読解力問題にも慣れてきた。今年度より、読解力をつけるために、こども新聞の記事を読んで要点をまとめたり、感想を書いたりする学習を取り入れている。  ●今後は、自主学習について全校で意識統一して、指導・個別支援を行うようにしたい。	教職員アンケート	A	0	87	13	0	/
					保護者アンケート	B	6	66	22	6	
					児童アンケート	A	100	/	/	0	/
					漢字検定	A	90点以上 学年平均87%				
					計算検定	A	90点以上 学年平均95%				
					自主学習ノート	B	学年平均75%				
		○家庭での学習にしっかり取り組んでいる。	A	○目標は、達成することができた。家庭学習調べの結果によると、自主学習や読書にも取り組み、家庭での学習時間は延びてきている。今後も家庭との連携を図り、家庭学習が十分でない児童には、個別に声を掛け、指導していきたい。	家庭学習時間	A	学年平均92%				
		【目標値】 ○家庭学習時間(低30分、4年以上は学年×10分以上) ○保護者・児童の8割以上が肯定			保護者アンケート	A	16	67	11	6	0
					児童アンケート	A	88	/	/	12	/
		○少人数を生かした学習指導	○教師一人一人が個に応じた学習に努めている。  【目標値】 ○教職員・保護者・児童の8割以上が肯定	A	○個に応じて、eライブラリやEILS等のデジタルドリルを行い、学習したことへの定着を図っている。一人一人に目を配り、丁寧に指導するよう努めた。	教職員アンケート	A	0	100	0	0
				保護者アンケート	B	16	61	11	6	6	
				児童アンケート	A	94	/	/	6	/	
	○協働的な学びの確保	○教師一人一人が「主体的・対話的で深い学びに向かう」授業づくりに努めている。  【目標値】 ○教職員・保護者・児童の8割以上が肯定	B	○今年度は、算数科を中心に研究に取り組んだ。少人数による話し合い活動を含め、協働的な学びに視点を当てた研究授業を行い、実践を共有した。 ○研究協議には全教職員が参加し、ICT活用や、対話活動のよりよい指導方法について話し合った。 ○主体的に学ぶための授業の導入の工夫や、深い学びにつながるよう、授業で学んだことを学校生活の中で活用していく場面等を教職員が共通理解し、あらゆる教科において授業改善に努めた。 ●更なる時間の確保が必要である。単元構成の中で、適切に対話活動を位置付けて児童と共に計画的に授業を進めていくようにする。	教職員アンケート	B	0	63	37	0	/
				保護者アンケート	B	6	66	6	0	22	
				児童アンケート	A	91	/	/	9	/	
	学校関係者評価委員の所見	○児童アンケートの結果から、楽しみながら学習に取り組んでいることが分かる。今後もお願いしたい。 ○今後の複式学級を見据えて、複式学級における学習指導の充実に努めてもらいたい。 ○1人1台端末の効果的な活用と併せて、「書く力」が低下することのないように、工夫して指導に当たってほしい。		学校の対応			○少人数のよさを生かし、今後も「楽しい」「分かる」授業づくりに努める。 ○研修計画に、複式学級の学習指導についての内容を組み込むことで、計画的に研修に取り組む。 ○アナログとデジタルのベストミックスで、「書く力」が向上するよう学習指導に当たる。				

【評価基準】 A:目標を達成(80%以上) B:おおむね達成(60%以上) C:あまり達成できていない(60%未満)

項目	小項目 (重点目標)	評価指標及び目標値	評価	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果				
							4	3	2	1	分らない
やる気で頑張る子	○健康・安全教育の充実	○早寝・早起き・朝ごはんの生活習慣が定着している。 【目標値】 ○教職員・保護者・児童の8割以上が肯定	B	○平日と休日とで2～3時間起床時刻がずれる児童もおり、日頃から就寝時刻が遅く慢性的に睡眠が不足しており、休日に起床しにくいことが予想される。早寝早起きの習慣化を更に働き掛ける必要がある。 ○朝食の摂取状況については9割以上の児童が毎日食べている。しかし、食事の内容はごく少量であったり、偏りのあるものであったりするため、現状を把握し指導に努めなければならない。 ○今後も保護者の協力を得ながら、生活リズム調を継続して実施し、健康により生活習慣の定着に努めたい。	教職員アンケート	B	13	62	25	0	
		保護者アンケート			B	22	45	33	0	0	
		児童アンケート			B	62			38		
	○児童は、健康管理に努め、毎日元気に生活している。 【目標値】 ○教職員・保護者・児童の8割以上が肯定  ○欠席0の日が年間80日以上	B	○前年に比べると、感染症以外での欠席が増え、欠席0の日は少なくなっている。感染症対策などによる身体面の健康管理だけではなく、心の健康に対する支援の充実を図っていく必要がある。 ○長時間にわたってスマホやSNSを使用している児童が複数おり、児童だけで管理するのが難しいようである。県警から講演に来ていただいたり、保健だよりでの啓発を繰り返し行ったりしてきたが、なかなか十分な効果が得られない。使用する時間や閲覧しているコンテンツの内容、個人情報の取り扱いなど健全な使用方法を繰り返し啓発し、見直す機会を意識的に持たせたい。	教職員アンケート	A	38	62	0	0		
				保護者アンケート	B	11	61	22	6	0	
				児童アンケート	B	74			26		
				欠席0の日	15日(12/19現在)						
学校関係者評価委員の所見	○ゲーム機やスマートフォンの使用時間が多いことが気になる。様々なものやことと直接触れ合う機会が減っているように感じる。各家庭の考え方によると思うが、決まりを決める等の工夫をして、少しでも直接体験を増やしてほしい。 ○学校として、難しいかもしれないがスマートフォンなどの有効的な使い方について指導してもらえるとよい。	学校の対応	○毎月一回行っている「家庭学習・生活習慣調べ」を今後も継続し、児童自身に自分の生活を振り返らせるとともに、保護者へ啓発する。 ○関係諸機関と連携し、情報モラル教育を充実させる。 ○PTA活動の一環として勉強会を開催するなど、各種講座や啓発活動を保護者主体で行えるように努めたい。								

【評価基準】 A:目標を達成(80%以上) B:おおむね達成(60%以上) C:あまり達成できていない(60%未満)

項目	小項目 (重点目標)	評価指標及び目標値	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果				
							4	3	2	1	分からない
やる 気で 頑張る 子 体	○挨拶・返事等生活習慣の確立	○児童は、進んで元気な挨拶をすることができる。  【目標値】 ○教職員・保護者・児童・地域の8割以上が肯定	A	○昨年度から行っている「14(いちよん)あいさつ運動」を継続して行っている。1学期は、挨拶は低調気味だったが、継続して指導したことにより、児童は元気な挨拶を実践できるようになった。○なかよし集会で「中山小学校言葉のルール」を再確認したことで、正しい言葉遣いや挨拶運動を主体的に実践する学年が出てきた。そのことがきっかけで、校内の挨拶は活気が出てきた。校内での実践が、地域や家庭にも広がるよう、励行していきたい。	教職員アンケート	A	0	100	0	0	
		保護者アンケート			B	11	56	11	6	16	
		児童アンケート			A	94			6		
		地域アンケート			A	56	36	4	0	4	
		○体力づくりの推進	○児童は、発達段階に応じた体力が付いている。  【目標値】 ○教職員・保護者・児童の8割以上が肯定	A	○小規模校のよさを生かし、体育科の授業を中心として一人一人に応じた指導や助言、関わりができています。校内持久走大会では、児童一人一人に個々のめあてを持たせ、日々の練習に取り組ませるとともに、指導や助言、関わりを工夫した。また、友達との外遊びを通して、楽しみながら体力を向上させることができた。しかし、個人差が見受けられた。より多くの児童が自主的に体を動かせるような工夫を講じていきたい。	教職員アンケート	A	25	62	13	0
			保護者アンケート			B	22	50	22	6	0
		児童アンケート	A			94		6			
	学校関係者評価委員の所見	○よりよい挨拶を目指して、様々な取組がなされている。今後も継続してほしい。 ○発達段階に応じた体力がついていないと感じている保護者が多い。学校として、できる範囲で体力の向上に努めてほしい。		学校の対応			○挨拶運動を継続し、児童が学校だけでなく、地域や家庭でも元気に挨拶することができるよう働き掛ける。 ○業間や昼休みには外遊びを奨励する。体育科の時間には、運動量を確保する。そのことにより心身ともに健全な児童の育成に努めたい。				

【評価基準】 A:目標を達成(80%以上) B:おおむね達成(60%以上) C:あまり達成できていない(60%未満)

項目	小項目 (重点目標)	評価指標及び目標値	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果				
							4	3	2	1	分からない
学び続ける子	○夢と希望を持ち、最後までやり抜く心の育成	○夢と希望を持ち、最後までやり抜く心が育っている。  【目標値】 ○教職員・保護者・児童の8割以上が肯定	A	○運動会や持久走大会、がんばり遠足、学習発表会などの学校行事や、水泳練習や陸上練習などに励み、最後までやり抜く経験を積んできており、どの児童も自己肯定感が育ってきていると思われる。 ○今後は、学校生活で見られた児童の頑張りが多方面に広がるように、児童の長所を認め、伸ばしていくように努めたい。	教職員アンケート	A	25	62	13	0	
					保護者アンケート	B	11	61	22	0	6
					児童アンケート	A	91			8	
	○学習習慣・読書習慣の形成	○豊かな心や言葉を育む読書活動が推進されている。  【目標値】 ○教職員・保護者・児童の8割以上が肯定 ○読み聞かせ等の読書指導を月3回以上 ○児童の読書量が1か月8冊以上	B	○最低週1回の図書室利用・中山読書Day(全校読書)・多読賞の表彰・広い分野の本に触れる読書deビンゴ・読書集会・100冊達成者による本紹介・ボランティア・教員・図書委員による読み聞かせなど様々な手立てを講じて、読書活動を推進している。 ○しかし、生活リズム調べの結果を見ると、家庭での読書時間は十分ではないと考えられる。学校でも家庭でも、大人が率先して本に親しみ、児童が本に触れる環境を意図的につくっていく必要がある。これからも活動を継続し、読書活動を通して豊かな心や言葉を育んでいきたい。	教職員アンケート	A	62	38	0	0	
					保護者アンケート	C	0	28	56	16	0
					児童アンケート	A	85			15	
					読書指導の回数	B	1.8回				
					1学期からの読書通帳	A	1か月の平均 13.1冊				
	学校関係者評価委員の所見	○様々な活動や行事を通して、「粘り強くやり抜く心」が育っていると感じる。これからも、児童が自分の成長を感じることができるよう指導に当たってほしい。 ○読書活動の推進は、スマートフォンやゲーム機利用の時間が大きく関係している。学校での読書活動をこれまで通り充実させてほしい。	学校の対応	○本校独自の特色ある取組(がんばり遠足)などを通して、今後も最後までやり抜く心を持った児童を育成する。 ○学校の図書室以外で本に触れる機会が少ないのも事実である。学校で貸し出した図書を用いて、親子読書を奨励したり家庭学習に読書を取り入れたりして、家庭での読書量も確保できるように努めたい。							

【評価基準】 A:目標を達成(80%以上) B:おおむね達成(60%以上) C:あまり達成できていない(60%未満)

項目	小項目 (重点目標)	評価指標及び目標値	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果				
							4	3	2	1	分らない
学び続ける子 知徳体	○郷土愛の醸成	○地域の人・自然・文化を生かした教育活動が展開されている。  【目標値】 ○教職員・保護者・地域の8割以上が肯定  ○地域体験活動を各学年学期に1回以上実施	A	○学校行事や教科等の学習で、地域の様々な場所に出かけて学習したり、地域の方から話を聞いたりすることができた。 ○開校150周年記念事業において、地域・学校関係者の多大な協力のもと教育活動を支援いただいた。児童も意欲的に学校を地域に発信した。 ○地域の社会活動を理解したり、豊かな人間関係を育んだり、美しい自然を味わう体験をしたりすることは、ふるさと中山への愛着を持つ上でも重要である。地域の方のご協力に感謝し、今後も活動を工夫していきたい。 ●地域の方を学校に招いてご指導をいただくなど、引き続き、計画性を持って、地域とのつながりを大切に活動した活動を拡充していきたい。	教職員アンケート	A	13	87	0	0	分らない
					保護者アンケート	B	11	61	0	0	
					地域アンケート	A	36	56	0	4	4
					地域体験活動	A	学年平均1.4回				
	○学校便り、学年通信、ホームページ等で学校の情報を積極的に発信している。  【目標値】 ○教職員・保護者・地域の8割以上が肯定 ○毎月1回以上学校・学級便り配付 ○毎日1回以上HP更新	A	○目標は達成している。保護者の中には、不十分だとする意見も一部あるが、おおむね肯定的な意見である。 ○毎月発行の学校だより「はぐくみ」は、地域の方にも配付しており、学校や子どもの様子がよく分かることのご意見をいただいている。今後も子どもたちの様子を中心に伝えられるよう努めていきたい。 ○ホームページは、毎日1回は更新している。学校だよりよりもタイムリーに子どもの様子が伝わり、保護者からも好評を得ている。今後も子どもたちの様子、学校の様子をタイムリーに伝えられるよう努めていきたい。	教職員アンケート	A	50	50	0	0	分らない	
				保護者アンケート	A	22	72	6	0		0
				地域アンケート	A	59	41	0	0	0	
				学校便り	月 1 回						
				学年便り	月 0.5 回						
				HP更新	月 20 回						
学校関係者評価委員の所見	○少人数になっても、地域と関わる活動を工夫して継続していただきたい。地域の社会活動を理解し、ふるさとを愛する心の育成につながると考える。これからも、地域とともに前進していく学校であってほしい。 ○地域の社会活動(例:ホテル保存会)等は、地域で何とか盛り上げていく。そのためには、学校も力を貸してほしい。	学校の対応	○アフターコロナとなり、地域とともに活動できる行事も戻ってきた。今後は、コミュニティースクールの導入も見据え、地域人材を活用し指導に当たりたい。そうすることで、ふるさとのよさに気づき、ふるさとを大切にする児童の育成に努めたい。 ○地域の方にとっては、ホームページや学校だよりが、学校の様子を掴むよりどころとなっている。今後も、ホームページや学校だより等を通じて、タイムリーで正確な情報の発信に努めたい。								

【評価基準】 A:目標を達成(80%以上) B:おおむね達成(60%以上) C:あまり達成できていない(60%未満)

項目	小項目 (重点目標)	評価指標及び目標値	評価	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果				
							4	3	2	1	分からない
業務改善	○教育の質の向上と教職員の負担軽減に向けた取組	○教職員は子どもと向き合う時間を確保できている。 【目標値】 ○教職員の8割以上が肯定	B	○87%が肯定的意見で、目標は達成している。限られた人員の中で、児童の多様なニーズや学校・学級の課題に対応しているため、理想的な児童との関わりに十分至っていない感触もある。今後は、業務のスリム化や精選を図りながら、負担感を減らしていきたい。	教職員アンケート	A	0	87	13	0	
		○巡回教育相談員、スクールカウンセラー等の人材や関係機関との連携がなされている。 【目標値】 ○教職員の8割以上が肯定		○肯定的な意見が87%で目標は達成することができている。今後も、関係機関との連携を強化するとともに、新たな協力体制の構築に努めたい。 ○相談員等から、学級担任に直接アドバイスしたり、担任が相談員へ指導方法や関わり方などを相談することで、個に応じた指導ができている。	教職員アンケート	A	37	50	13	0	
		○教職員は専門性が高まる研修に取り組んでいる。 【目標値】 ○教職員の8割以上が肯定		○学校長のリーダーシップの下、研修主任が中心となり校内研修の充実に努めることができた。児童の学力向上につながる研修や、1人1台端末の効果的な活用に関する研修を今後も行っていきたい。 ●参集形式の研修会が多くなった反面、校務や学校行事等のため、希望する研修会に参加することが難しかった。限りある人員で校内の指導体制を工夫し、研修会に参加しやすくなるよう努めたい。 ●人権・同和教育の研修を充実させ、持続的なものにしていく必要がある。	教職員アンケート	B	0	75	25	0	
		○教職員は健康の保持とワークライフバランスの確立がなされている。 【目標値】 ○教職員の8割以上が肯定		●全体的評価は下がっている。定時退勤日の設定や業務のスリム化を図っているが、負担感は十分に解消されていないと考える。 ○今後も、超過勤務時間の縮減と負担感の解消のため、行事等の精選や業務のスリム化、同僚性の向上等に努めていく必要がある。	教職員アンケート	B	0	62	38	0	
	学校関係者評価委員の所見	○先生方のご苦労は重々承知している。児童のために、先生方には心も体も健康で過ごしていただきたい。		学校の対応	○教職員一人一人が、働きがいや幸福感を持てるよう、ワークライフバランスを心掛けた働き方改革を推進していきたい。 ○業務の優先順位や軽重を付けたり、業務の再分担を行ったりすることで持続可能な教育活動を展開していく。そのためには、管理職が積極的に働き掛けていきたい。						